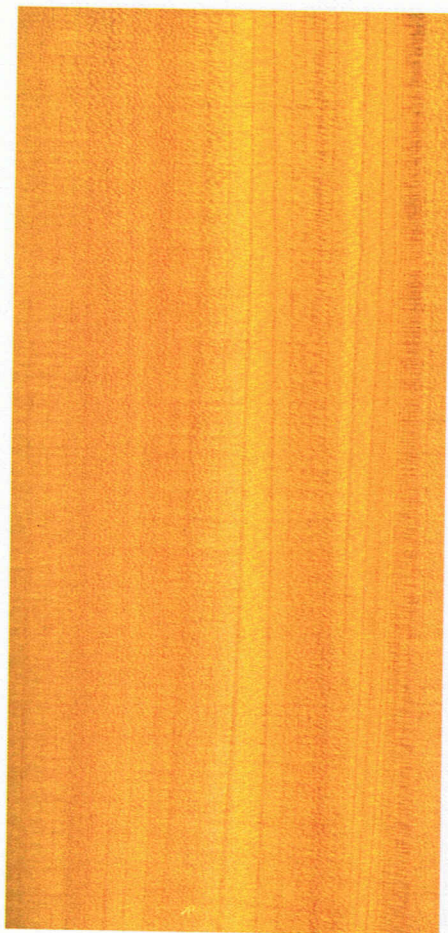


KEYAKI

ケヤキ

Keyaki (ケヤキ) 樺		ニレ科ケヤキ属	学名 <i>Zelkova serrata</i>
表 面 状 態	環孔材。肌目は粗。木理は通直。生長が良いほど年輪幅は広く重硬になる。古木に玉杓、縮み杓、牡丹杓等の美しい杓が生じることがある。		
生 育 地	日本(本州、四国、九州)、朝鮮、中国、台湾等の肥沃な土壌を好む。農家のまわり、神社仏閣の境内等にも植えられている。街路樹、庭園樹、公園樹としても多く使われている。		
材 色	心材 黄褐色～貴帯紅褐色。辺材 淡黄褐色。心辺材の差は明瞭。		
重 さ	気乾比重 0.69(g/cm ³) 0.47～0.84まで幅があるが、重硬といえる。		
強 さ	曲げ強さ 100N/mm ² 縦圧縮強さ 50N/mm ² 強くて粘りがある方である。		
弾 性 係 数	曲げ弾性係数 12.0kN/mm ² 重さの割には硬く、強度がある。。		
加 工 性	加工性は硬さの割には良好である。曲げ木にも対応する。		
耐 久 性	耐久性は高い。耐虫害・腐朽性に優れている。		
安 定 性	狂いは生じにくい。製品後の安定性は良好。杓の部分でも安定性が高い。		
乾 燥 性	木材乾燥は時間がかかるが、難しくはない。乾燥後は比較的安定している。。		
塗 装 性	塗装・染色性は良好。仕上がり感が良い。乾拭きするだけで艶が出る。		
同 属 樹 種	アジア東部と欧州東部に5～6種類あるとされる、非常に小さな属である。 中国に大葉樺(<i>Z. schneideriana</i>)、小葉樺(<i>Z. sinica</i>)		
同 名 異 種	日本ではケヤキは最も優良な広葉樹材とされており、塗装すると木目が似ていたりするものを○ゲヤキと称している場合がある。 ニレゲヤキ(ハルニレ)、タモゲヤキ(ヤチダモ、シオジ)、センゲヤキ(センノキ) 等。		
用 途	日本ではケヤキは最良の木材とされ、建築構造(大黒柱、門柱等)、造作材(鴨居、床板、床の間等)、家具(茶箆筥、卓袱台、箆筥、火鉢等の和家具、椅子やテーブル等の洋家具)、建具、仏壇、ロクロ製品、小物製品、臼・杵、道具類(墨壺、鉋台、銃台等)、機械材(滑車、そり等)、杓子、農具等の柄(シャベル、斧等)、楽器材(太鼓の胴、琵琶の胴、三弦等)、櫛材、彫刻材、象嵌部材、下駄、車両材(車両の内装材、荷馬車等)等々、多方面にわたって使われている。神社仏閣あるいは古民家等ではあらゆるところにケヤキが使われ、彫刻欄間等にもケヤキが使われている。和家具としては水屋箆筥、車箆筥、薬箆筥から茶箆筥、卓袱台等、桐材とともに代表的な木材である。拭き漆調の仕上げでは、同様の木目の出るニレ、タモ、セン、クリ等で代用されることがある。杓のあるものは、茶箆筥等の前扉、卓袱台の天板、ロクロ製品の茶櫃、盆、鉢類に珍重されている。		



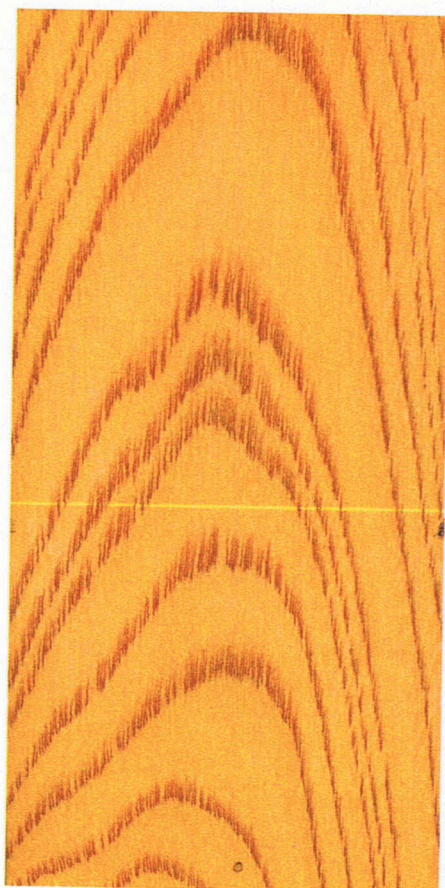
ケヤキ柾目®



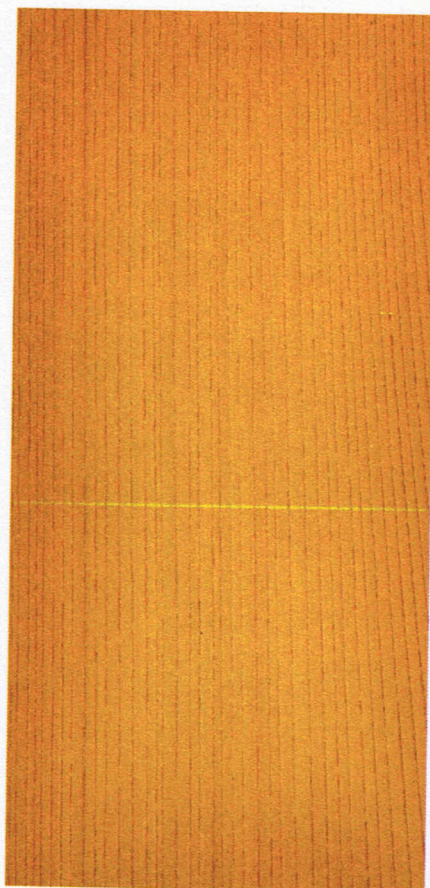
ケヤキ



ケヤキ波状柾®



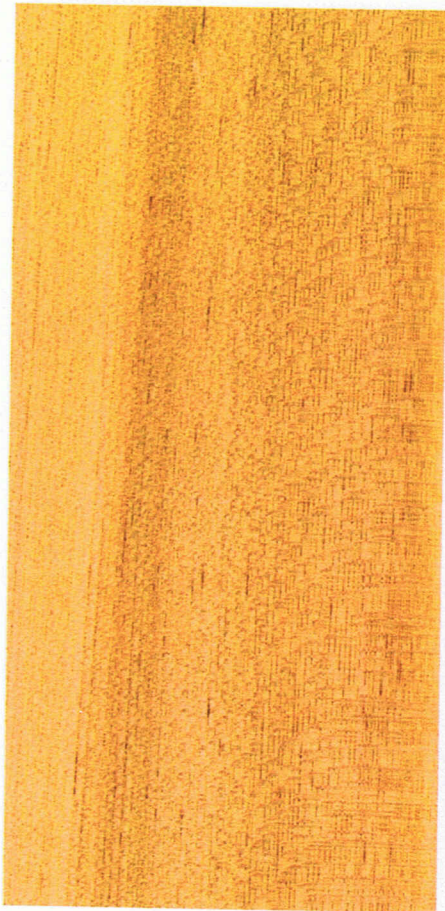
ケヤキ



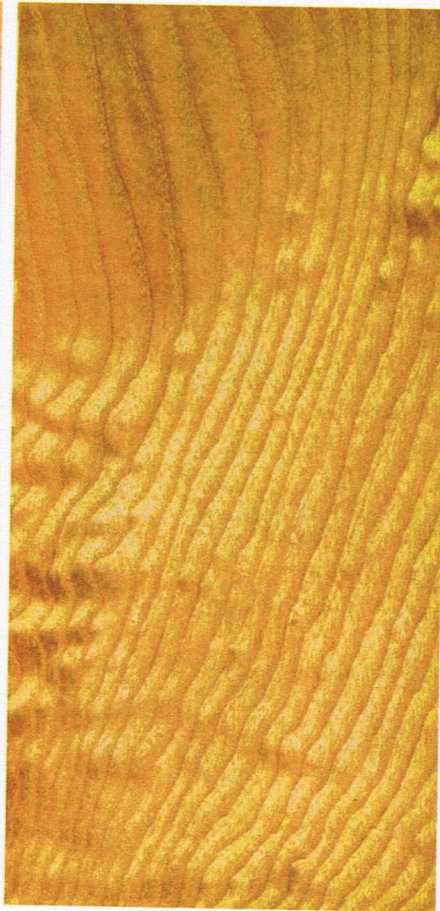
ケヤキ



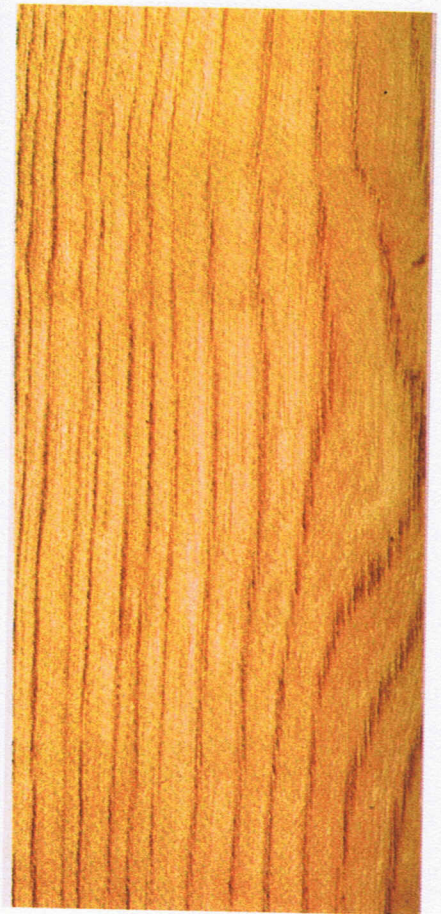
ケヤキ®



ハルニレ[®]



ヤチダモ[®]



センノキ[®]

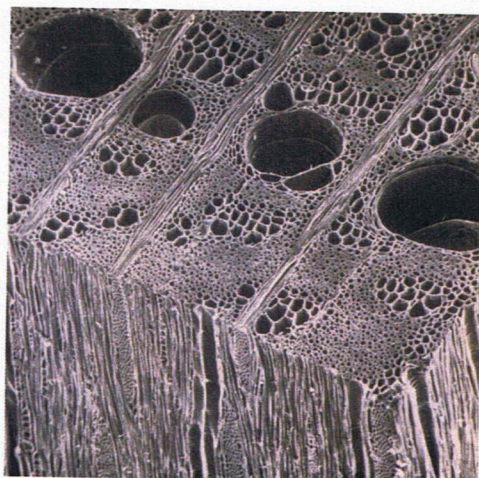
同属の樹種	木材の特徴
チュウゴクゲヤキ (<i>Z. schneideriana</i>)	中国に2～3種類のケヤキがある。その他、世界を含めて5～6種類程度と、小さい属である。日本以外では、あまり木材の利用は見られないようである。

異種同名の樹種	木材の特徴
ハルニレ (春楡) Japanese elm (<i>Ulmus japonica</i>)	北海道から本州、四国一円、中国東北部、朝鮮半島、シベリア、サハリン等に広く分布し、大木になるものも見られる。ケヤキと同じニレ科にあり、有用な環孔材で、やや重硬、家具、建築内装材その他のものに使われている。材色は少し暗くすんだものが多く、着色してヤチダモやケヤキの代用とされ、ニレゲヤキと称することがある。時に空をあらわすものがあり珍重されている。ニレの仲間にはアキニレ、オヒョウニレ等があり、中国や朝鮮にも幾つかの種類がある。また、欧米ではエルムとして多くの種類があり、これら市場にでて、日本にも一部輸入されている。また、ニレ科の中には、エノキ(属)の仲間、ムクノキ(属)の仲間もある。
ヤチダモ (谷地榊) (<i>Fraxinus mandshurica</i>)	北海道と長野県以北、中国東北部、朝鮮半島、シベリア、サハリン等の冷涼な地域に広く分布している。ケヤキ材と木目が似ているので、タモゲヤキと称することがある。タモの仲間にはシオジ、トネリコ、アオダモ等があり、世界でもアッシュ材として幅広く利用されている樹種である。家具や建具、建築内装材、あるいは野球のバット、農機具等の柄等重硬で粘り強い木材として用途は広い。時に空を生じるものがあって珍重されている。

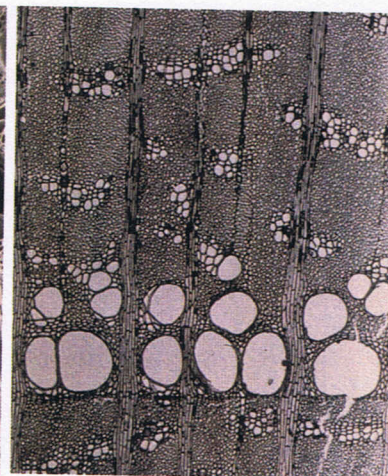
異種同名の樹種	木材の特徴
ハリギリ (針桐) センノキ (栓) (<i>Kalopanax pictus</i>)	日本全国、中国東北部、朝鮮半島、サハリン等、広く分布している。市場でよく見かける木材で、加工しやすく、狂いも小さいので、家具、建築造作材等多方面にわたって利用されている。比較的重硬なものから軽軟なものまである。有用な環孔材で、木目がケヤキに似ているので、センゲヤキといわれることもある。

ケヤキはニレ科ケヤキ属の落葉広葉樹(*Zelkova serrata*)で、日本、朝鮮や中国に生育しています。ケヤキ属は非常に小さい種類で、日本の特産といえます。そして、日本では、ケヤキは最も有用な樹種であり、実に多くの場面で使われています。重硬な木材ですが、比較的加工性や乾燥性、耐久性が良く、しかも身近にあったので、日用的なもの、日用的な道具、器具等に使われていました。お椀や盆の類から、文箱や小抽斗、杵と臼等に使われました。また、大径なものも入手できたので、大黒柱とか、鴨居、あがり框、門扉等耐久性があつて、強度を必要とするようなところにも使われています。そして、板戸、床の間、水まわりの水屋簀笥、火鉢、仏壇等の家具や建具類としても使われてきました。北陸地方を中心として、櫓簀笥の伝統があり、大正時代以降、茶簀笥、卓袱台等の和家具は主としてケヤキが使われてきました。ケヤキに摺り漆というのは、木目や杳を生かす仕上げで、現在の和家具にはこういったものが多いようです。また各種の洋家具にも取り入れられていて、和的な感じのする洋家具としても賞用されています。

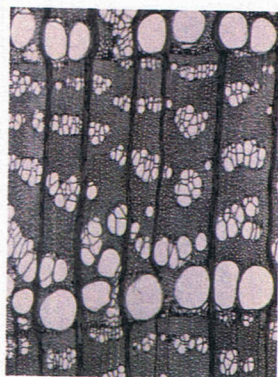
ケヤキの中でツギゲヤキとかアオゲヤキとかいう表現も見られますが、生長の良くて年輪幅が広いもので、赤みが少なく、重くて硬く、狂いの出やすいようなものをさしており、別種ではありません。また、ケヤキの仲間ではないのですが、〇〇ゲヤキという表現で、木目等が似た仕上がりになるものをいふことがあります。タモゲヤキ、ニレゲヤキ、センゲヤキ等、和家具の世界では一般的に使われています。茶簀笥等で前板だけケヤキで、側板等をこれらの木材を使っている例がありますし、全部にケヤキを使わない場合もあります。その場合には〇〇ゲヤキという表現をとるようです。便宜的に付けた名称ですが、ケヤキがそれだけ高級材であるということだと思います。



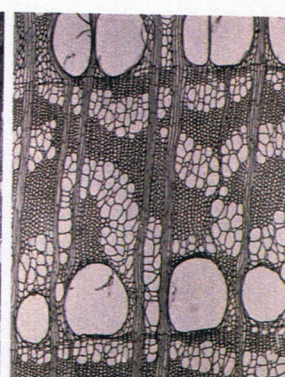
走査型電子顕微鏡写真^①



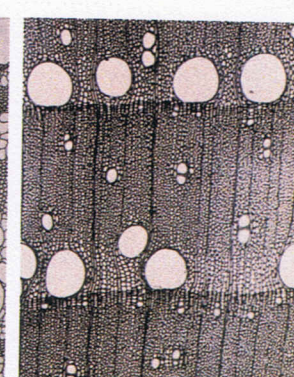
木口の顕微鏡断面^①



シロジ木口の顕微鏡写真^①



ハルニレ木口の顕微鏡写真^①



ハリギリ木口の顕微鏡写真^①